

たけら

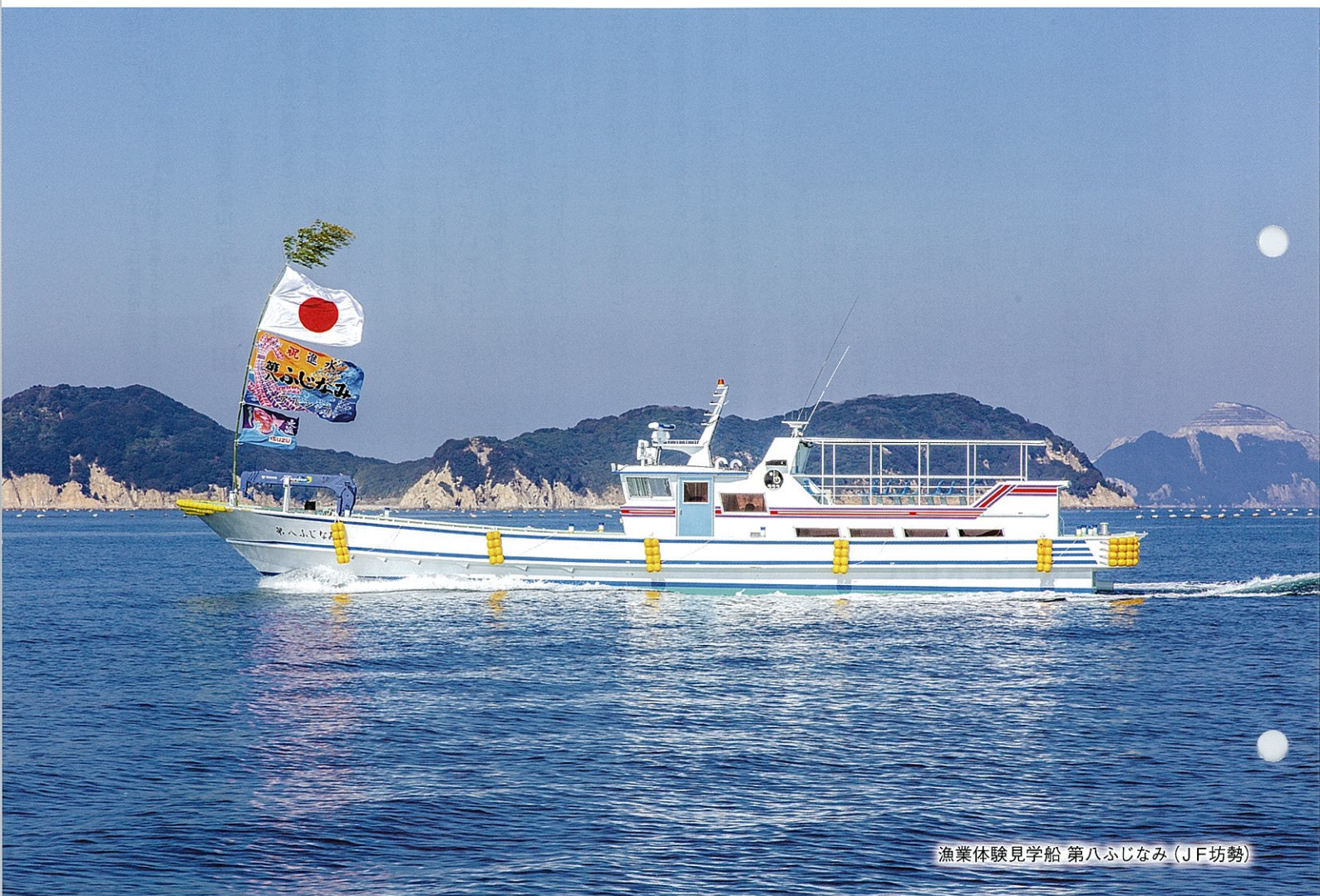
TAKUSUI
No. 749

3

March.2019

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



漁業体験見学船 第八ふじなみ (JF坊勢)

漁業体験見学船 第八ふじなみの竣工祝賀会 第24回 全国青年・女性漁業者交流大会

《今月の海上安全標語》 ～ 見張りは大事 ～

操業中は忙しいですね。しかし作業に気をとられてるうちに、近くに大型船が…
大型船はすぐに曲がる・止まることが出来ません

気をつけて すぐに曲がれぬ 大型船 では、今月も安全操業で!

ようこそ

（ずっとと真つ直ぐに）

（ようこそとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときにの号令として使われる）

危機管理

JF但馬柴山支所長 和田 耕治



「危機管理」の心構えとして、曲突徒薪きょくつとろしんという聞き慣れない四字熟語があります。出典は漢書の霍光伝で、曲突徒薪無恩澤、焦頭爛額爲上客耶きょくつとろしんむおんたく、きょうとうらんがくゑいじやくやです。意味は、中国のある宿の煙突近くに薪が積んであったのを見た旅人が、危険だから煙突を曲げてさらに薪の保管場所も変えた方が良いでしょうと助言するも、宿の主人は聞く耳を持たず旅人を追い払った。やがて旅人の心配していたとおり宿は火事になり、別の旅人が火の中に飛び込み火傷を負いながら消火活動をした。主人は大変感謝し、その旅人を大層もてなした。しかし、また別の旅人が本来ならば最初に助言した旅人こそもてなすべきではないかと言ひ、主人は大いに恥じ入ったという昔話からきています。つまり、未然に災難を防ぐことです。

これを東北大地震時の福島第一原子力発電所のお歴々が垂範していたら未曾有の大事故は防げたであろうことは論を俟たないでしょう。

やがて「平成」から新時代へと変わりますが、私くらの年代ですと「昭和」の方に造詣が深く、往事に思いを馳せるとき、『東大安田講堂事件』、『あさま山荘事件』が浮かびます。この難事件を陣頭指揮、鎮圧した初代内閣安全保障室長の佐々淳行氏が昨年10月に亡くなりました。縦社会を横に生きた男として知られ、「危機管理」という言葉は彼から発せられたともいわれています。私は彼の本が発行される度に読み耽ったものです。中でも忘れられない五つのフレーズ、『省益を忘れ、国益を思え』、『悪い本当の事実を報告せよ（その部下を褒めてやれ）』、『勇気を持って意見具申せよ』、『自分の仕事ではないというなかれ』、『決定には従い、命令は実行せよ』。いわゆる後藤田（正晴、あさま山荘事件時の警察庁長官、中曽根内閣時の官房長官であり佐々氏とは師弟関係）五訓です。漁協の一支所を総べる者として拳拳服膺したいものです。もうひとつの心構えとしては「悲観的に準備をして楽観的に対処せよ」（佐々氏）は今や災害大国と化した我が国の政治家や官僚に訊いてほしいものと考えます。もちろん、わたしたちにも。

『あさま』（この事件には、のちに現役警察庁長官狙撃事件の被害者となる國松孝次氏も広報担当幕僚として従軍しています）を鎮圧し、しばらくしてからこのおぼれ話を最後にひとつ。当時、警察官僚で若くして「警視正」の階級であった佐々氏に対し、彼の奥様はこう言ったそうです。「ところであなたはいつ「巡査部長」におなりになるの?」

CONTENTS

No.749 March. 2019

- 2 ようこそ
- 3 イカナゴ漁 始まる
JF坊勢 漁業体験見学船 第八ふじなみ竣工
- 4 JF明石浦 浜の活力再生プラン 優良事例表彰
第24回 全国青年・女性漁業者交流大会
- 5 明石海峡安全対策協議会
ライフジャケット義務化から1年
- 6 シンポジウム「里海保全の最前線」
「淡路島サクラマス」3月1日解禁
- 7 兵庫JCC通信
- 8 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「漁業体験見学船 第八ふじなみ」(JF坊勢)

最近注目されている観光漁業ですが、その中で今回竣工したこの第八ふじなみは、乗客40名が乗船でき、船室でモニターを通じてDVDを用いた学習や、3Dソナーの画像を通じて海底の魚礁の姿などを確認することが出来ます。この船が活用され坊勢の漁業をはじめ、観光面でも坊勢島がますます活気づくことでしょう。

イカナゴ漁 始まる! ～今年は3月5日に解禁～

春の訪れを告げるイカナゴ漁が始まりました。



今年兵庫県水産技術センターがイカナゴ新子の数が少ないと予想したことを受け、2月27日(火)の試験曳ぎの結果、解禁日は3月5日となりました。

解禁後、漁期前の予想のとおり水揚げ量が少ない状況が続いており、浜での入札価格や鮮魚店・スーパーでの販売価格が高値で推移しています。

また、大阪湾では漁獲量が非常に少なく、大阪湾で漁を行う神戸市・淡路島・大阪府の漁業者で協議を行い、8日を以って来年以降の資源を残すために漁期終了との判断となりました。

播磨灘側では、引き続き漁は続きます。(3月15日現在)

JF坊勢 漁業体験見学船 第八ふじなみ竣工

平成31年3月10日(日)、姫路市家島町坊勢の家島群島開発総合センターにて、JF・行政など多くの関係者が訪れるなか、JF坊勢(岡田武夫組合長)の漁業体験見学船 第八ふじなみの竣工祝賀会が開催されました。

岡田組合長は「県・市など、たくさんの方々のお力添えにより竣工することが出来ました。漁業体験を通じて今後の坊勢島の漁業のみならず、漁家民泊など島内を活性化したい」と話されました。



今後は、第

八ふじなみを活用し、単なる一般的な観光漁業としてだけでなく、市内の小中学生などの自然学校や環境学習での利用や、魚食普及推進に役立てるとともに、漁家民泊など新たな産業と連携し、坊勢島を活性化することが期待されます。



船内客室

第八ふじなみ

船質 アルミ軽合金
長さ 二十一・二メートル 幅 四・三八メートル 深さ 一・五五メートル 総トン 数十九トン。

主エンジン いすゞ製の十二気筒、千三百馬力最新型の漁船用機器類を装備し、特にスリッドソナーにより、海底の地形を立体的に見ることができ、漁礁の位置や形を客室にあるモニターへ映し、画像で実感する事が出来ます。

モニターは四基ありソナー画像のほか、DVDを放映することが出来ます。

JF明石浦 浜の活力再生プラン 優良事例表彰

JF全漁連と水産庁は3月4日、浜の活力再生プランの全国推進会議と優良事例表彰式を東京・千代田区のコープビルで開催し、会場には、全国のJF漁連やJF、地方公共団体など1000人を超える関係者が来場しました。

産業再生委員会明石浦部会の「明石のまえもんの買取販売サポーターづくりで販路を拡大」が選ばれ、JF明石浦 戎本裕明組合長が表彰状を受け取りました。

全国推進会議では、水産庁が浜プランの実施状況等について報告したほか、優良事例表彰受賞者の3団体が取組事例を報告しました。会議終了後に開かれた優良事例表彰式では、漁業所得の向上に関して他地域の模範となる優良な取り組みを行った8地区を、高鳥修一農林水産副大臣や長谷成人水産庁長官、岸宏JF全漁連会長、関係団体代表らが表彰しました。



第24回 全国青年・女性漁業者交流大会 ～淡路漁青連 JF共水連会長賞 受賞!～



平成30年2月28日(木) 3月1日(金) にかけて第24回 全国青年・女性漁業者交流大会が、東京・千代田区のホテルで開催されました。この大会は、全国の青年・女性漁業者が、日頃の研究・実践活動の成果を発表するとともに、参加者間の交流により知識や情報を共有・進化させて水産業・漁村の活性化目的とし、毎年開催されています。

本県からは、淡路地区漁協青壮年部連合会 山崎大輔会長が、地域活性化部門において「青年部がやるべきこと」島の魅力発信 将



発表する山崎会長

来に繋ぐ私たちの思い」と題し、洲本市農業青年会議との異業種間連携による淡路島の1次産業の魅力発信の活動や淡路さかな屋マップ作製、観光客へのアンケート実施によるデータ収集などの活動について発表しました。

1日に行われた結果発表では、取組内容が評価され「JF共水連会長賞」を受賞しました。(発表資料はQRコードのリンク先からご覧いただけます。)



明石海峡安全対策協議会 開催

明石海峡安全対策協議会（事務局：神戸海上保安部航行安全課）は、国内有数の輻輳海域である明石海峡を利用する漁業者と船舶運営会社等の関係者の相互理解を深めるため、毎年開催されています。今年度は、2月22日（金）に明石市の兵庫県水産技術センターで開催され、漁業関係者や大型船運航会社



船曳網を説明するJF淡路島岩屋東根組組合長



ノリ網養殖を説明するJF明石浦或本組組合長

明石海峡安全対策協議会（事務局：神戸海上保安部航行安全課）は、国内有数の輻輳海域である明石海峡を利用する漁業者と船舶運営会社等の関係者の相互理解を深めるため、毎年開催されています。今年度は、2月22日（金）に明石市の兵庫県水産技術センターで開催され、漁業関係者や大型船運航会社

意見交換では、イカナゴ盛漁期の出向状況や午前中における大型船の運航時間調整といった話題のほか、小型底曳船の水中のワイヤー状況や船曳網のブイ下の網の状況、漁労中の小型船の動きについてなど、様々な意見が交わされ終了しました。

の関係者ら約30名が、明石海峡での海難事故防止について話し合いました。この日は、神戸海上保安部航行安全課第一海務係 仲田 幸生係長より、第五管区海上保安部管内の海難発生状況などの説明と、兵庫県水産技術センター 岡村 武司専門技術員より「兵庫県瀬戸内海の漁業」と題した講演が行われ、瀬戸内海の漁業種類や漁船数などが説明されました。その後、当センターの施設見学を行い、エントランスでは漁業者が大型船運航会社関係者へ漁具模型を見ながら水中の網の様子などを説明しました。

小型船舶におけるライフジャケット 着用義務から1年経過 着用していますか！！

小型船舶におけるライフジャケットの完全着用義務化がスタートし、1年が経過しました。平成30年2月1日から、小型船舶の船長は、原則、すべての乗船者にライフジャケットを着用させることが義務になり、着用させないと違反となります。違反した船長には違反点数が課せられ、最大で6カ月の免許停止となります。

もちろん、従来から義務化となっていた一人乗り漁船については、従来通り違反点数は課されません。命を守る「ライフジャケット」。キッチリ着用しましょう！救命胴衣・救命合羽の購入、お問い合わせは、JF兵庫漁連資材部（TEL：078-942-9272）へ



救命合羽

遵守事項違反点数

違反の内容	点数	他人を死傷させた場合
酒酔い等操縦 自己操縦義務違反 危険操縦 見張り実施義務違反	3点	6点
ライフジャケットの非着用 発航前の検査義務違反	2点	5点

行政処分基準

		過去1年以内の違反累積点数			
		3点	4点	5点	6点
過去3年以内の処分前歴*	無	処分の対象外		業務停止1か月	業務停止2か月
	有	業務停止3か月	業務停止4か月	業務停止5か月	業務停止6か月

※処分前歴とは、遵守事項違反等による処分又は海難審判所の裁決による操縦免許に係る処分の前歴をいう

シンポジウム「里海保全の最前線」が開催 水産多面的機能に関わる教育活動や 環境保全活動などを紹介

JF全漁連（岸 宏代表理事長）と全国内水面漁連（宮腰 光寛代表理事長）は2月23日、東京・文京区の東京大学安田講堂で、シンポジウム「里海保全の最前線」（2018年度水産多面的機能発揮対策報告会）を開催し、全国から漁業関係者ら約500人が参加しました。

このシンポジウムは、水産業と漁村には、国民へ安全で新鮮な水産物を安定供給するほかに、藻場や干潟等の沿岸環境や、河川環境の保全、監視活動、環境教育の場の提供など多面的な役割があり、漁業者や漁村がこれら多面的機能の役割を果たしていることを多くの国民や教育関係者へ伝えるため

開催され、基調講演のほか、8地区の活動組織による環境生態系の保全や海の安全確保などの取り組みと成果の紹介などが行われました。

基調講演では、「持続可能な社会づくりの

ための地域と学校の協働」をテーマに、多摩市立南鶴牧小学校関口寿也校長（全国小中学校環境教育研究会研究部長）が学校教育の中で環境教育を行うことの難しさや外部との協力が必要であることを話されました。

第1部の「水産多面的機能発揮対策と教育活動」と題したトークセッションでは、船橋市漁業協同組合活動グループ（千葉県）、南川ラインレスキュー隊（福井県）、芦北地域アマモ場再生・保全活動組織（熊本県）が教育や学習の取り組みについて話題提供を行いました。

第2部の活動報告では区活動組織（長崎県）、北限域（内浦湾）の造礁サンゴ群落保全会（静岡県）、宇佐地区協議会（高知県）、大杉谷川をよみがえらせる会（石川県）、中泊町沿岸訓練実施隊・小泊海の監視ネットワーク活動組織（青森県）が環境保全や海の安全確保の取り組みを説明しました。

また、本県からは、兵庫運河の自然を再生するプロジェクト『みんな目指す「豊かな里海」「ゆりかごの海』と香住の海の会『海の監視ネットワーク強化の取り組み』のパネル展示が行われました。

「淡路島サクラマス」3月1日解禁!

～今年で3年目、淡路島全島でデビュー! 40店舗76メニュー登場!～

淡路島サクラマスプロモーション実行委員会

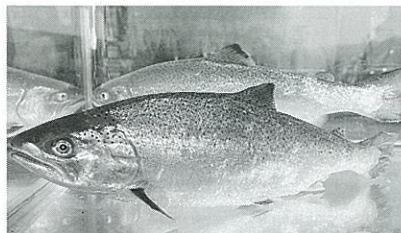
待ちに待った「淡路島サクラマス」の出荷が3月1日にスタートしました。これまで南あわじ市内の店舗のみでしか提供されていなかった『淡路島サクラマス』グルメが今年からは淡路島内全域の各観光宿泊施設や飲食店等の全40店舗で3月5月末までの間楽しめます。

淡路島サクラマスは冬の「淡路島3年とらふぐ」、夏の「べっぴん鱈」の合間（3月から5月）に淡路島の新しいご当地ブランドを育てようとして、JF福良、観光協会、飲食店、県・市など関係者みなで知恵を絞り、一昨年誕生した期待の新星です。4年前までは島に存在しなかったサクラマスが淡路島の春の名物になりつつあります。

養殖量については、昨年は2業者で14,000匹だったところを、今年には3業者で23,500匹を育てています。



ご当地グルメのお披露目会



サクラマス



有名3魚をのせた「春☆スター丼」の例



メニューの例

提供メニューについては全部で76メニューがあり、そのうち5月限定で淡路島の春の3大フィッシュ（淡路島サクラマス、しらす十サワラ）が1つの丼にのった「春☆スター丼」が19店舗で販売されます。

詳しくは「淡路島サクラマス」で検索を!

http://www.awajikoku.com/sakuramasu/

障がい者就労と 農家支援目指して 農福連携マルシェ開く

JA兵庫南

JA兵庫南は、農業振興と地域の活性化を目指す取り組みの中で、担い手農家から意見を聴くため懇談会を開きました。多くの農家が労働力不足に悩んでいることが改めて分かりました。そこで、障がい者の就労と農家の農作業支援の双方にメリットが期待できる「農福連携」に注目し、取り組みを始めました。

昨年9月、相互理解を深めるため、障がい者と農業者が共に農作業を実施。JAが稲美町に設置している「にじいろ農園」で、障がい者がJA青壮年部員の指導を受けながら、キャベツ苗の定植やニンジンの種をまきました。

その後、除草などの作業を協力して行い、この冬に収穫。今年1月、地域の人々に障がい者たちが育てた農作物を買って食べてもらい、農業と福祉への理解を深めてもらう、「農福連携マルシェにじいろ」を6次産業化拠点「にじいろふぁ～みん」で開きました。農作物や加工品の販売のほか、障がい者が太鼓の演奏を行うなど、大勢の来場者でにぎわいました。

JAでは、農福マルシェを機会に次のステップとして、地域の障がい者就労支援事業所と連携して、障がい者が農家の農作業に就労できる仕組みづくりを目指しています。



障がい者とJA青壮年部員が力を合わせて
キャベツ苗の定植やニンジンの種まきを行いました

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

兵庫JCC 第3回 虹の仲間づくりカレッジ報告

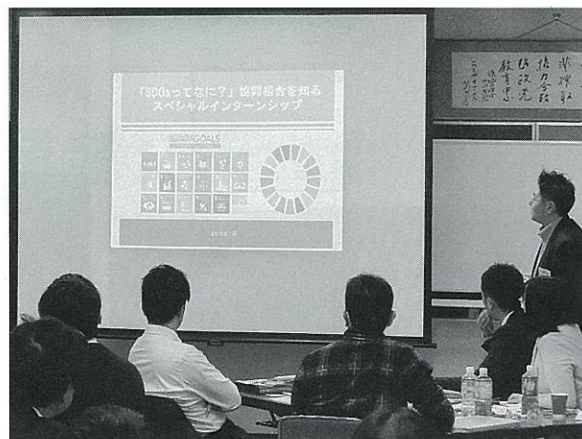
日時：2019年2月12日（火） 10：00～17：15

場所：生活協同組合コープこうべ協同学苑 研修棟

中堅・若手職員を対象に協同組合間の交流と「協同組合人」としての連帯感醸成をはかり、SDGsを含む社会的課題解決に向けた企画と実践を行う「虹の仲間づくりカレッジ」。今年度は、26人のカレッジ生が5班に分かれ、各班ごとに取り組むテーマを定め、企画・実践に取り組んできました。

2月12日（火）、今年度の最終回となる第3回目は、その実践報告会です。午前中は、10月～2月に各班ごとに実践した内容をパワーポイント等で報告用資料を作成する等、発表準備をすすめました。午後からは、各班の実践発表&相互評価を行いました。

どの班も、課題をしっかりと見据え、実践に向けて事前に関係部局と調整を進めており、地に足の着いたレベルの高い実践報告会となりました。参加者からも、「協同組合として何ができるかをこれからも考えて続けていきたい」「社会的課題を解決するために、日々の業務で何かプラスにできることがないかを意識して業務にあたります」等、前向きな感想が寄せられ、自信と手ごたえを感じたカレッジになったようです。



<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊 方子



解説ということ

◆ 解説とは、良く判るよう物事を分析して説明する事と「広辞苑」にある。ニュース解説では、近々の出来事を詳細に解き明かし、徹底的に判らせようとする。事件の発生から経緯を子細に解析し、噛んで含めるような説明がある。週刊誌の特集記事は、凶悪犯罪やスキャンダルを取り上げ大仰に解説、また誰と誰が仲良しで彼と彼女はどうなったと人気タレントの行状を暴露したりする。旺盛なサービスピ精神は、往々に目を逸らしたくもなるが、此処までやるかと野次馬根性を大いに刺激しても呉れる。好奇心を掻き立てて、時には啞然とさせる。

◆ 観光バスではガイド嬢が、その土地の名所旧跡を案内してくれる。流れるような名調子で町の見所を指し示し、客は右に左に首を振りつつ、ガイドの手の動きに合わせて聞く。しかし、バスを降りれば、すっかり忘れていく。耳から入った情報は、余程のことがない限り記憶には残らず、右から左へと流れ去る。パンフレットでもあれば、思い出す助けにはなるのだろうか、ずっと以前の旅では解説書が大いに役立つ。遠くに行った事を楽しみ、食べた物を思い出すのは旅の記憶としての楽しみだ。旅行に出るとパンフレット類を集める事だ。

◆ 文庫本の巻末に解説と称する頁がある。その本の見どころ勘どころが丁寧に説明されており、必要なさそうな随筆本にまで解説がついている。筆者は文庫本を買うと、その解説頁から読み始める。読み方の参考になるし、何か安心して読める気分になれるので好きだ。旺文社文庫として出版した岡本綺堂『半七捕物帳』には、江戸文化を丁寧に説明した素晴らしい内容の解説がある。辞書にも載っていない話や、民族や風習の解説部分が実に面白く語られてあり、江戸情緒もじつじつと満喫できるし、捕物話しとともに価値のある文庫だった。

◆ 一度観た映画は、筋書きが判っている分だけ興味が殺（そ）がれ、面白みが少なくなる。前知識が無ければ、もつと新鮮な感動があつて愉しさが倍増される筈のものだ。同様に、結果の判っている推理小説は読んでも詰まらない。この先、何が起きるか不明であれば、それが好奇心を刺激し感動や興奮度が高まる。初めての道を歩く時も、知らないという不安と共に、新奇な出会いに対する期待感が大きく膨らむのである。暮らして張り合いを持たせるものは、未知の世界へ乗り出すワクワク感であるような気がする。未知の事を知る喜びは、何にも変え難い。「解説」されることに疑問を持つのはそんな時なのである。

大輪田塾だより

「組合の経営成績である決算書について」 「最近の水産庁の施策について」

2月の大輪田塾は26日(火)に開講されました。

第1部「組合の経営成績である決算書について」では、JF兵庫漁連指導部 組織強化担当 課長 役 中筋 昭夫氏より、決算書の貸借対照表・損益計算書の説明が行われ、演習にて資産・負債・純資産を計算し経営タイプを判別しました。決算書を見ることで、所属する組合の状況を知り、組合経営の意思決定に役立ててほしいと話されました。

第2部「最近の水産庁の施策について」では、JF兵庫漁連指導部 課長 佐藤 泰弘氏より、浜の活力再生プランや浜の担い手漁船リース緊急事業など近年の補助事業についての詳しく説明が行われ、ただ金銭的補助を受けるのではなく、何を目的として補助を受けているのかを意識し、責任を持ち補助事業を利用して欲しいと話されました。



佐藤課長の講義



中筋課長役の講義